

孤立死させないで

西図書館 遺品整理の専門家招く

富士市立西図書館は5日、平成26年度主催講座を同市富士町の市交流プラザで開いた。

遺品整理専門会社キーパース代表の吉田太二氏が講師を務め、遺品整理の現場から学ぶ「最後まで孤立しないために」をテーマに講演。約70人の聴講者が孤立死を防ぐために必要なことを学んだ。

吉田氏は平成14年に起業。「天国へのお引越しのお手伝い」をコンセプトに全国に支店を展開している。23年にはキーパースをモデルにしたさだまさし著『アントキノイノチ』が映画化され遺品整理業が注目を集めた。現在では年間1500件

に及ぶ遺品整理を取り扱っている。

講演では数々の経験を基に、DVD映像を交えながら孤立死の現状と原因、社会から孤立しない方法を伝えた。



孤立死の現状と原因を説明する吉田氏

孤立死とは厚労省の造語で、客観的に見て、一人暮らしの人が地域から孤立した状態で死亡することを意味している。

孤立死の現状として

は、家族制度の崩壊や未婚の増加、煩わしさから逃避して便利な世の中で育った人格、女性の社会進出と男性の経済的不安などが原因となり、増加を続けているという。

同社が請け負う孤立死対応の80%は男性で、高齢者だけでなく50代も増えている現状を説明。「家事がこなせてセカンドライフを有意義に過ごせる女性と違い、他人との会話のネタを持たず不器用で家庭生活で役に立たないような男性が孤立死しやすい」と指摘した。

孤立死を防ぐ方法として▽「他人事ではない」という意識を持つ▽身近な友達を複数人持つ▽何歳まで生きるか決める▽をアドバイス。このうち「何歳まで生きるか決める」では、残りの寿命で財産

の3分の2を使い切るように配分することが必要になるという。

吉田氏は「寿命と予

算を設定することで、やりたいことの優先順位とペースが把握でき、漠然とした日々を改善

することができる」と効果を説明し、実践を呼び掛けた。